



～ 夢に向かって学び、共に伸びゆく院内の子 ～

世界レベルのすごさを体感！



1日(金)、院内小学校にオリンピックがやって来ました。リオ、東京、パリのオリンピック3大会に出場した、エマニュエル・マタディ選手です。男子100M走に出場し、準決勝まで進んだ実力者です。上の写真は、5・6年生の体育の授業に参加し、子どもたちと一緒にグラウンドを駆けてくれたときのものです。

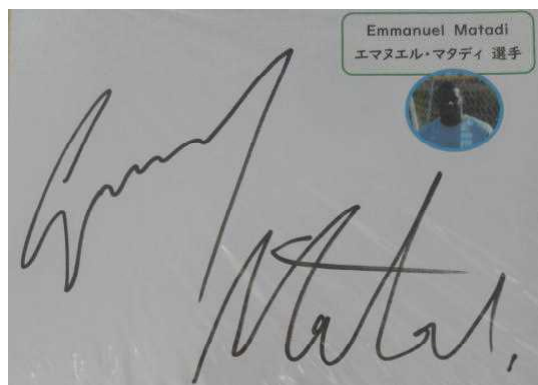
にかほ市が東京オリンピック・パラリンピックで西アフリカ・リベリアのホストタウンを務めたことで実現した、夢のような体験です。マタディ選手のダイナミックなフォームによる力強い走りとそのスピード、迫力に、子どもたちは大興奮、大感動でした！

子どもたちからの質問にも、丁寧に答えてくれました。その後5年生の教室で子どもたちと一緒に給食を食べ、昼の全校一斉清掃を見学し、昼休みにはグラウンドで鬼ごっこなどをして全校の子どもたちと一緒に遊んでくれました。いつもは体を動かして遊ぶことの少ない子どもも、この日は笑顔で歓声を上げながらグラウンドで楽しく遊ぶことができました。

シーズンオフ期間でありながら、この日はずっと走りっぱなしだったマタディ選手です。一流選手とはいえ、ずいぶん疲れたことと思います。「おかげで子どもたちは、かけがえのない貴重な体験ができました。ありがとう」と伝え、笑顔で応えてくれました。優しさも、超一流でした。



< 鬼ごっこで一緒に遊んでくれました >



< 全校のみんなにサインをくれました >

院内小のがんばり ～ おめでとうございます！ ～



☆ 第8回ニカホWin-s CUP U12の部

第3位 ニカホWin-s FC



堀*** 手***
石*** 加***



☆ にかほ市未来の発明工夫・夢絵画展

夢絵画 最優秀賞 5年 木***
発明工夫 特賞 5年 松***
特賞 2年 齋***



移動保健教室（5年）



10月31日（木）、学校医の和***先生を講師にお迎えして、5年生の移動保健教室を行いました。

「メディアによる健康への影響」について、VDT症候群など様々な好ましくない影響について教えていただきました。VDT症候群とは、コンピュータのディスプレイなどを長い時間見ることにより、目や体、心に様々なよくない症状をきたすものです。

こころの教室（6年）



6日（水）、臨床心理士の橋***先生を講師にお迎えして、6年生の「いのちの教室」を行いました。

「はあって言うゲーム」を通して、相手に自分の気持ちを伝えたり相手の気持ちを受け取ったりするときに、言葉だけではなく声の調子や表情、姿勢、ゼスチャー等、非言語による情報も大きな影響をもっていることを学びました。

校長の独り言

「『ながら勉強』はいけません」と言われたことは、ないでしょう。か。「テレビを見ながら」「ラジオを聴きながら」・・・▼それが今は、「サブスクで音楽を聴きながら」「動画を見ながら」「ゲームをしながら」・・・なんていう困ったことが、世の中では実際にあるそうです▼ながら勉強以外にも、端末利用による「本当に？」というような弊害が問題になっていきます。その一つが、「急性内斜視」です。近くのものを見ると寄り目状態になります。それが長い時間スマホなどを見ると、それが眼球が内側に寄った状態で固定化してしまい、ピントが合わなくなる病気で、▼依存の問題もあります。夢中になって生活リズムが乱れ、勉強を後回しにして結局やらないまま朝を迎える、食事を後回しにする、睡眠時間を削る、昼夜逆転になるなどの怖い状態です▼一度依存状態になってしまえば、簡単には抜け出せないようです。受験生になっても、動画やSNSを自制できないなどがあるらしいです▼この問題は、「家庭でしつけるべき」「学校で指導すべき」とするのではなく、学校と家庭が共に力を合わせて取り組んでいくべき課題だと思います。今後、学校報等で情報提供し、共に考え適切に対応していきたいと思っています。